



草と草の根の連帯をあらわす  
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586  
E-mail: GRH@ma1.seikyuu.ne.jp http://ha1.seikyuu.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori

## 原爆と原発 人類は共存できない

平和資料館・草の家 館長 岡村正弘

東日本大震災で犠牲になられた多くの方々への深い哀悼とともに、すべての被災者の方々への心からのお見舞いを申し上げます。

福島第一原発の事故が最終的にどうなってゆくかは、誰にも分かりません。

あまりにも被害が深刻で大きすぎて、検討すら出来ないのです。

核戦争が起これば、地球上の人類は滅亡するといわれていますが、原発事故もそれに匹敵します。

3月28日の高知新聞に「震災翌朝 東電 ヨウ素値公表せず」の記事。東京電力は東日本大震災翌日の12日未明に原発正門付近で検出した放射性ヨウ素の測定値を発表せず、「放射性物質(ヨウ素など)の測定値が通常より上昇しております」と報道。ヨウ素検出は、炉心溶融の前段となる炉心損壊が進行していることを示す“兆候以上の証拠”にも関わらず、広報せず。27日になってようやく「12日午前5時頃、原発正門付近で検出限界値の100倍の“ヨウ素などのガス”を検出した」と言明。「炉心損壊、炉心溶融」が考えられると言いました。

東京電力は「炉心損壊、炉心溶融」は絶対に起こり得ないと主張し、安全神話となっていました。しかし、その安全神話が今完全に崩れ去りました。

「炉心損壊、炉心溶融」の被害はこれからどれくらい長期間、広範囲に放射能汚染の被害を及ぼすのか想定できません。被害額は天文学的な数字になるでしょう。

世界が注目しています。トップレベルの専門家が日本にぞくぞく来ています。それでも何ともならない深刻な事態がこれから長く続くでしょう。

被災者救援、原発事故の危機収束に国家の総力をあげて取り組むことを望みます。

核兵器の廃絶と同様に原子力発電の廃止を強く訴えます。

東京電力が撮影した  
3月21日の福島第一原発3号機

